



台場っ子

令和 6 年 6 月 2 8 日

**台場小学校の
教育目標****加えよう やりよう 伝えよう**

主体的・対話的で深い学び

校長 高 島 伸 彦

学習指導要領とは、日本中どの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするための各学校での教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準です。学校教育法に基づき、文部科学大臣が告示するかたちで、時代の変化や子どもたちの状況、社会の要請などを反映させるためにほぼ10年毎に改訂されています。現在の学習指導要領は、平成29年に告示されていますので、次期学習指導要領についての議論も既に進められています。

本校でも、この学習指導要領を基に様々な教育活動を推進していますが、現在の学習指導要領のキーワードの一つとして「主体的・対話的で深い学び」という言葉があります。

この「主体的・対話的で深い学び」とは一体どういうことでしょうか。

簡単に述べますと、これまでの教師のスタイルは、黒板の前に立って子どもたちに一方的に説明をして、ある意味子どもたちはそれを受け止めるという授業のイメージがあったと思います。ですが、これから急速に社会が変化していく中で、今までのように知識をただ暗記しておくだけでは、実際の社会ではなかなか活躍できる人材にはなり得ません。そこで、自分から進んで学んでいくことを「主体的な学び」としています。また、子ども同士がお互いにディスカッションして話し合ったり、問題を解決していったりすることが「対話的な学び」です。そして、これまで身に付いてきた様々な知識や技能を、積極的に活用しながら自分の考えをアウトプットして、より深く理解していくことを「深い学び」としています。

この「主体的な学び」と「対話的な学び」には、「見通しをもつこと」「粘り強く取り組むこと」「共に考えを創り上げること」「多様な手段で表現すること」が非常に重要です。

これらは、これまでの全国学力・学習状況調査をはじめとする各種調査で、本校の子どもたちの課題となっている部分です。特に「粘り強く取り組むこと」や「多様な手段で表現すること」は、これからの社会を生き抜くためには必須のものだと考えます。

これらの定着のために、意欲的にかつ粘り強く取り組めるような内容の工夫や、ICTの効果的活用も取り入れながら、自分の考えを仲間に伝えたりする場面を取り入れるなど、より一層授業改善を推進していきたいと考えています！！

